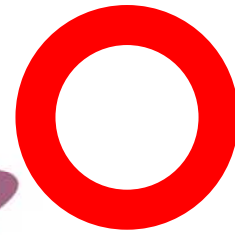
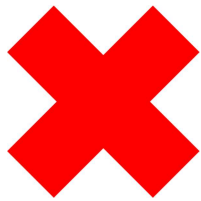


WLB支援に関する誤解



・経営状況によっては取り組まなくてよい

・労働時間短縮が目的である

・子育て支援や少子化対策が目的である

・「ほどほどの働き方」への転換のことである

・WLB 支援は制度を導入すれば実現できる

・仕事中心のライフスタイル

・WLB 支援はコストがかかる

・WLB 支援は、福利厚生施策でなく職員にとって基本的な「報酬」、時間生産性を高める取り組み

・時間生産性が高まり結果として労働時間の短縮が実現できるが、短縮が主たる目的ではない。長時間労働でない職場でも WLB 支援の取り組みが必要

・すべての職員の WLB 支援が不可欠

・メリハリのある効率的な働き方の実現が WLB 支援実現の必要条件

・制度を活用できる仕事の仕方や働き方への改革が不可欠

・多様な価値観やライフスタイルを受容できる職場を実現すること

・コストを要する施策は少ない